

須賀川市立長沼中学校・平成29年度学校通信

# 長中だより



第18号（平成30年2月26日発行）発行者 校長 小貫 崇明

## 【3月の生活目標】

- 今年度1年間を振り返り、それぞれの新しい出発に備えよう。
- ・卒業・進級への準備

## ○第2回生徒会総会～今年度の活動を総括して～

2月22日（木）の午後、生徒会活動の今年度を総括する第2回生徒会総会を実施いたしました。

後期生徒会・善方悠貴会長のあいさつでは、「より良い学校をめざして活発な総会にしてほしい。」という話がありました。校長からは『だれのせい』ではなく、『だれのおかげ』と考える感謝の気持ちを大切に長沼中をさらに良い学校にしてほしい。」と話をしました。

議事では、「期末テスト予想問題をもう少し早めに出してほしい」や「生徒会会計で各部活動でのお金の使い道を詳しく知りたい」など、様々な意見や質問が積極的に出され、次年度を見据えた充実した総会となりました。2年生中心の生徒会執行部のしっかりした準備とスムーズな運営が感じられた生徒会総会でした。



## ○今年度最後の「授業参観」&「学年保護者会」



2月16日（金）に、今年度最後の授業参観・学年保護者を開催しました。

今回も保護者の皆様の参加率が高く、ほのぼのとした笑顔でお子さんの1年間の成長の姿をご覧になっていました。また、特に3年生の最後の授業参観は、学年集会形式で「親子カルタ大会」を行いました。カルタとにらめっこしながら、親子で百人一首を楽しんでいました。

その後の学年保護者会では、それぞれの学年の3学期の学校生活について総括を行うとともに、特に1・2年生においては、3年時の修学旅行や受験の準備に向けた説明が行われました。

## ○長沼中「いじめの防止のための基本的な方針」の改定について

1月より改訂作業を進めてまいりました本校「いじめの防止のための基本的な方針」につきましては、職員会議や学校評議員会において内容を確認し協議してまいりました。その結果、先日配付した原案通りに改定することにいたしました。今回の方針のとおり、子ども一人一人に行き届くきめの細かい指導・支援を教師一丸となって行ってまいります。



## ○図書室の本の貸し出し数が1000冊を超えました！！

2月16日(金)におめでたい出来事がありました。本校の図書室における今年度の貸出数が、目標の1000冊を超えたのです。

今年度も学校司書の三本松先生のご協力により、生徒会の図書委員会の活動も活性化され、昨年度よりも昼休みの図書室利用が増えてきているということです。

長沼中は小さな学校で、図書室もそれ程大きくありませんが、全校生徒があたりまえにたくさん本を読む学校になってほしいと、これからも様々な取り組みをしていってほしいと思います。図書委員の皆さん、1000冊達成本当におめでとうございます！！

(右の写真は、図書室に掲示された1000冊突破を祝うボード)



## ○「第2回学校評議員会」を開催しました



2月23日(金)に、第2回学校評議員会を開催いたしました。ご来校いただいた3名の評議員の皆様には、今年度の長沼中生の活躍や小中一貫教育の取り組み、学校評価の結果、学力向上対策と現在までの進路決定状況、改定予定のいじめ防止基本方針、次年度に向けた学校運営上の課題等について、学校側から説明するとともに、それぞれの立場からご意見をいただくことができました。

特に、今年度の長中生の文武両道における活躍についてたくさんのお褒めの言葉をいただきました。また、いじめ防止対策や部活動指導などについて貴重なご意見を頂戴しました。次年度の学校運営に活かしていきたいと思っております。

## ○「卒業式」に向けて～感動の儀式を全校生でつくる～

3月13日の卒業証書授与式に向けて全体練習が始まりました。1回目の練習(21日)では、礼法や服装等の確認、入退場の練習を行いました。3年生の緊張感と一体感のある動きが1・2年生にも伝わって、1回目としてはとてもスムーズで立派な練習ができました。2回目(23日)では、各学年で練習してきた合唱が体育館に美しく響きました。全校生の思いが一つになる、そんな感動の儀式を目指して全校生は真剣です。



(膝の上のこぶしに力が入ります)

### ★大切にしたい言葉(18)「成功には偶然があり、失敗には訳がある」

冬季五輪での日本人選手の活躍などをテレビでみていて、この言葉を思い出しました。勝手な解釈ですが、私は「勝った時でも天狗になるな」という意味にとらえています。振り返ってみると、私が高校や大学に合格した時も、吹奏楽コンクールで県の代表に選ばれた時も、自分の力で勝ち取ったような奢り(おごり)が少しありました。しかし、高校や大学では全然太刀打ちできない優秀な先輩や同級生に出会いました。また、コンクールの東北大会では一瞬の音を聴いて「すごい！」と自分の力の無さを思い知る圧倒的な演奏を聴きました。その時、「自分がここに来たのは単なる偶然かもしれない」と思ったのでした。ただ、優秀な仲間やすばらしい演奏に出会えたことが、その後の人生の糧(かて)になったことは言うまでもありません。